

## 市場の動向

### 【金利】

2月末に1.3%台後半だった長期金利（10年国債利回り）は、3月末には1.4%台後半となりました。春闘の結果を受けた継続的な利上げ観測の高まりや、ドイツ政権が財政拡張方針へ転換し欧州金利が大幅に上昇した影響などにより、月間で上昇しました。



### 【外国為替】

2月末に149円台半ばだったドル円は、3月末も149円台半ばとほぼ横ばいとなりました。月前半は、米国の関税政策による不透明感や、トランプ大統領の円安牽制発言を背景に、円高ドル安が進行しました。月後半は、米金融当局が政策金利を据え置く中、市場のリスク心理が改善したことを背景に、円安ドル高となり、月間でほぼ横ばいとなりました。2月末に155円台半ばだったユーロ円は、3月末には162円台前半となりました。ドイツ政権が財政拡張方針へ転換することを発表し、欧州の防衛費支出の増額や景気刺激策への期待が高まり、欧州金利が大幅に上昇したことなどを背景に、月間で円安ユーロ高となりました。



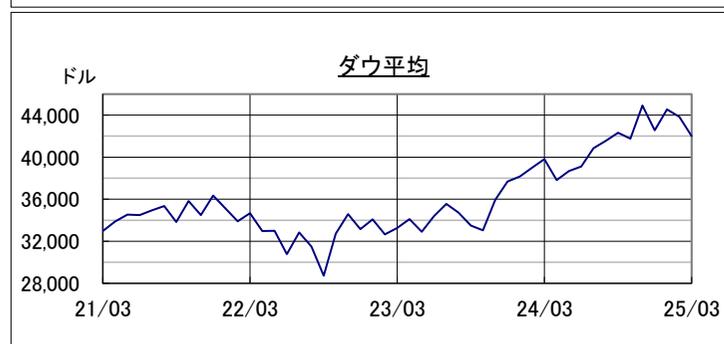
### 【日本株式】

2月末に37,155円だった日経平均は、3月末には35,617円と下落しました。月前半は、横ばい圏での推移となりました。月後半は、為替が円安方向に振れたことなどから上昇に転じたものの、月末にかけては、米政権が輸入自動車に対する関税の導入を公表したことが嫌気されたことに加え、相互関税による悪影響への懸念などから下落し、月間で下落しました。



### 【外国株式】

2月末から3月末にかけて、米国市場ではNYダウは4.2%下落、NASDAQは8.2%下落しました。欧州市場ではFTSE（英国）は2.6%下落、DAX（ドイツ）は1.7%下落しました。米国市場では、米国の関税政策による先行き不透明感が嫌気されたことや、発表された米景気指標が軟調だったことを受けて景気の停滞や個人消費の減速が懸念され、AI・半導体企業を中心に業績悪化への警戒感が高まり、月間で下落しました。欧州市場では、ドイツで財政拡張方針が公表されたことで欧州経済への期待が高まったことや、ウクライナ情勢を巡る警戒感が和らいだことにより、上昇する局面もあったものの、米国の関税政策による世界的な景気減速懸念などが重石となり、月間で下落しました。



## お客様にご確認いただきたい事項

### ご負担いただく費用などについてご確認ください。

- お払込みいただいた保険料のうち、その一部はご契約時およびご契約後に下記の費用等にあてられ、それらを除いた金額が特別勘定で運用されます。
    - 保険契約の締結、維持に係る費用
    - 特別勘定の運用に係る費用
    - 死亡保障などに係る費用
- ※控除される費用は、契約年齢・性別・保険料払込期間等により、契約ごとに異なるとともに、保険期間中変動します。そのため、費用の合計額や計算方法を表示することはできませんので、ご了承ください。
- 契約日から10年以内、かつ保険料払込期間中に解約・減額された場合、解約日の積立金額から経過年数に応じた所定の金額（解約控除）を控除した金額が解約返戻金額となります。
    - ※上記期間経過後は、積立金額と解約返戻金額は同額となります。
    - ※保険料払込方法が一時払の場合は、解約控除は発生しません。

### 運用リスクについてご確認ください。

- 変額保険は、保険金額や解約返戻金額が特別勘定資産の運用実績に基づいて増減する仕組みの生命保険です。
- 特別勘定資産は、日本の株式や公社債および外国の株式や公社債などで運用されます。そのため、株価や公社債価格の変動リスク、為替の変動リスク、信用リスクなどの運用リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる解約返戻金額が払い込まれた保険料の合計額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。なお、各特別勘定の運用方法は、以下のとおりです。
  - 国際型 外国の株式を中心に一部日本の株式を組入れ運用します。
  - 株式型 日本の株式を中心に運用します。
  - 総合型 日本の公社債・外国の公社債を中心に、一部日本の株式および外国の株式を組入れ運用します。
- 各特別勘定への繰入割合や積立金の構成割合を変更した場合には、選択した特別勘定の種類によっては運用対象や運用リスクの種類・大きさが異なることとなりますので、ご注意ください。
- 変額保険の主契約の死亡・高度障害保険金は、契約時に定めた基本保険金額が最低保証されますが、解約返戻金は最低保証されません。